

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	知識創産システム学特論2		
英文授業科目名	Advanced Topics in Knowledge Creation Engineering 2		
開講年度	2007年度	開講年次	
開講学期	後学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	情報システム学研究科-社会知能情報学専攻-応用科目		
開講学科・専攻	社会知能情報学専攻		
担当教官名	後藤 浩一		
居室	I S 客員教員		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【講義の狙い, 目標】

社会の中で行動する人間の活動を支援する情報システムについて論じる。その情報システムを構成する主たるものは、人間が携帯する機器と人間が行動する環境に埋め込まれた各種の機器や通信ネットワークである。携帯機器と環境の情報システムとの相互作用による支援システムが持つべき機能、構成法、それを実現する各種の技術等を紹介する。

【内容】

情報システムは、コンピュータの中での業務処理だけではなく、社会の中を行動する人間の活動を支援する方向にも進んでいる。携帯電話の高機能化はそのような傾向の一つの現われでもある。人間に対しさらに高度な活動支援を行うために、携帯機器の高度化だけではなく、人間が行動する環境自身にも何らかの情報処理関係の機能を埋め込み、人間側の機器と環境の情報システムが協調して活動するという方向が考えられる。鉄道等の公共交通機関の利用者の行動を支援することを中心に、そのような情報システムの機能、構成、実現技術を主題として講義を行う。

1. 人間の行動を支援する情報システムとは
2. 鉄道等の公共交通機関の利用者支援の問題点と今後の方向
3. ICカード、RFIDタグ、携帯機器
4. 移動制約者とバリアフリー
5. 位置を知るための技術
6. 地理情報システム、電子地図、情報の標準化
7. 個別的情報提供システムの例
8. 環境に埋め込まれた情報システム、データ散布
9. ユビキタスネットワーク、センサネットワーク

【教科書, 参考書】

特になし。適宜資料を配布する。

電気通信大学 平成19年度シラバス

【予備知識】

基礎的な情報処理技術の知識は持っているものとする。

【演習】

講義中、講義への感想、意見等についてメモ程度に記述して提出を求めることがある。

【成績評価方法及び評価基準】

中間時期、期末の2回レポートの提出を求め、その内容を中心に評価する。

【その他】

講義での事例は研究活動の経験から鉄道のものを中心となるが、社会全般に通じる内容となるように努める。